

「タワー オブ インプレスト」

ブルース

優秀な連邦捜査官

マクレーン

犯罪シンジケートのボス

パーカー

ブルースと急造コンビを組まされた連邦捜査官

ジェニファー

ブルースの恋人

スコット

ブルースの父

ペネロペ

マクレーンの部下

ビリー

ブルースの飼い犬

(以上5役は1名で演じるのが望ましい)

ビルの屋上へと向かうマクレーン。

マクレーンに銃を向けながら追って来るブルース。

ブル 止まれマクレーン！

ゆっくりと振り返るマクレーン。

ブル 連邦捜査官ブルース・マクマホンだ。既にこのビルは包囲されている。

お前にもう逃げ場は無い。諦めて投降するんだ！

マク ・・まさか、あの警備を抜けてこの最上階までやって来れる捜査官がいるとは思ひもなかったよ。しかし・・・その程度の事で、本当に私を追いつめたつもりかね？

ブル 屋上のへりなら、すでに破壊させてもらったよ。お前のやり方はすでに嫌というほど知っているからな。

マク なるほど・・・では長かった我々の因縁も、どうやらここが最終幕と言う事になりそうだな。

ブル 本当に長かったよマクレーン。さあ、こっちへ来い！

マク ああ、行こうブルース君。そうだ、これはここまで来れた君に、私からのプレゼントだ。

マクレーンが振り向き様に銃を構えるが、一瞬早くブルースが銃を撃ち落とす。

ブル お前のやり方は知っていると言ったはずだぞマクレーン。

マク ・・くっくっく・・・はっはっはっは！

ブル ついに狂ったかマクレーン。何がおかしい！

マク はっはっは・・・さすが私をここまで追いつめただけはある。君のような若くて優秀な捜査官は連邦の誇りだよ。しかし・・・優秀な捜査官は君だけだったようだね。

ブル ・・・どういう事だ！？

マク こういう事だよブルース君！

マクレーンの後ろから縛られたパーカー捜査官が現れる。

ブル パーカー！

マク 君と一緒にこのビルに潜入したこのネズミは、途中で君とはぐれた後、我々に捕らえられていたのだよ。

パー すまないブルース！俺が不甲斐ないばかりに、こんな奴らに捕まるなんて……。

マク さあ武器を捨てたまえブルース君。彼がどうなってもいいのかな？

マクレーンが懐から銃を出し、パーカーに向ける。

ブル くそっ……。

銃を地面に置こうとするブルース。

パー 撃つんだブルース！

ブル パーカー……。

パー 俺の事は気にせず撃つんだ！ここでこの冷酷非情な男を逃がしたら、また多くの悲劇を生む！こいつは、こいつだけはここで捕まえなきゃならない！だから撃つんだブルース！

ブル ……出来ない、出来ないよパーカー！

パー 俺の事は気にするんじゃない！俺は連邦捜査官になった時、すでにこの命は国に捧げた。だから俺の事は気にせず、引き金を引け！ブルース！

ブル パーカー……。

マク 人質は黙っていてもらおう。

マクレーンがパーカーを撃つ。

ブル パーカー！

パー ブルース……お前と過ごした二週間……悪くなかったぜ……。

絶命するパーカー。

ブル パーカー！・・・マクレーン！何故撃った！
マク 彼はもう用済みだっただけさ。
ブル 許さないぞマクレーン！
マク なに、すぐに君も友達の所へ送ってあげよう。

撃とうとしたマクレーンの銃をブルースが撃ち落とす。

ブル パーカーの敵だ、マクレーン。
マク ・・・ふっふっふ。めでたい事だなブルース君。
ブル なに？
マク 騙されていたとも知らず、ノコノココまで来た君が滑稽だったのさ。
ブル 何を言っている！
マク 君がこのビルに来る事は、始めから仕組まれていたのだよ、ブルース君。
ジェ ブルース・・・。

ジェニファーがやって来る。

ブル ジェニファー！
マク 君の彼女のジェニファーが君をこのビルまで誘導したんだ。私の命令によってね。
ブル なんだって・・・。
ジェ ブルースごめんなさい。わたし・・・、
ブル ジェニファー・・・一体どういう事だマクレーン！ジェニファーが何故ここにいる！
マク 君の愛するジェニファーは、私の娘だったのさ。
ブル 何だって！
ジェ ごめんなさいブルース。私、父があんな人だとは知らなくて、言われ
ブル ・・・君は悪くない。騙されただけだよ、ジェニファー。
ジェ ブルース・・・。
ブル ジェニファー・・・。

ジェ ブルース・・・。
ブル ジェニファー・・・。

マクレーンが懐から銃を出し、ジェニファーを撃つ。

マク 親の敵を愛するとは、悪い娘だ。

ブル ・・・ジェニファー！

ジェ ブルース・・・アイ、ラブ・・・。

ジェニファーが絶命する。

ブル ジェニファー！

マク 人など愛するなと教えたと言うのに、バカな娘だ。

ブル マクレーン！何故撃つんだ！自分の娘を！

マク 私は完璧主義者なのだよ。私の邪魔をするものはたとえ、娘であろうと許さない。

ブル 貴様それでも人間か！

マク 私にも情けをかける心ぐらいは残っているよブルース君。愛する者とともに逝きたまえ。

撃とうとしたマクレーンの銃をブルースが撃ち落とす。

ブル 貴様だけは・・・貴様だけは絶対に許さないぞマクレーン！

マク 全く、恐ろしい男だブルース君。・・・しかし神は私に味方するようだ。
ブル どういう事だ！

銃を構えたスコットが現れる。

スコ 武器を降ろしなさいブルース。武器を降ろすんだ！

ブル 父さん！何故ここに！？

マク 良くやったスコット。

ブル どういう事だ！何故父さんが！？

マク スコット・マクマホンは君の本当の父親ではない。
ブル え？

スコ ……すまないブルース。いつかは言わなければと思っていたんだが…
お前は本当は養子なんだ。

ブル そんな…。

マク スコットは私の実の弟なのだ。

ブル なんだって!?

マク そして先程死んだパーカー捜査官の父親でもある。

ブル な、なんだって!?

スコ ブルース。確かにお前は養子だが、私は実の息子だと思って育てて来た。
それはこれからも同じだ。ブルース、私たちは家族だ。兄さんを困らせ
るのは止めて、武器を降ろしてくれ。

ブル そんな…しかし…父さん…。

苦悶しながら徐々に銃を降ろすブルース。

スコ そうだ。いい子だブルース。

マク スコット、ブルースを撃て。

スコ !何を言っているんだ兄さん!

マク ブルースは私に銃を向けた。許す事は出来ない。

スコ そんな…出来ないよ兄さん!

ブル 父さん…。

スコ ブルースは私の息子だ。それを撃つなんて、

マクレーンが懐から銃を出し、スコットを撃つ。

マク お前はやはり出来損ないの弟だったな。

ブル ……父さん!

スコ ……ブルース…まだ私を、父さんと呼んでくれるのかい?

ブル 当たり前だよ父さん!俺にとって父さんは、この世で父さんだけだよ!

スコ ありがとうブルース…お前も、私にとって、自慢の…、

スコットが絶命する。

ブル 父さーん！

マク 弟としても父としても、お前は不出来な人間だったなスコット。

ブル 黙れマクレーン！血は繋がらずとも、父さんは俺にとって本当の父親だった！父さんを侮辱するのは許さないぞ！

マク 素晴らしい親子愛だ。君もすぐに父親の元に行くがいい。

撃とうとしたマクレーンの銃をブルースが撃ち落とす。

ブル マクレーン。もう終わりだ。友も恋人も親をも失った。もはや俺を止めるものは何も無い！

マク なるほど今の君を止めるのは確かに難しいだろう。だが・・・彼女を見てもそんな事が言えるかな？ペネロペ。

ペネ ハイ、ボス。

ペネロペが現れる。

ブル ・・・・誰だ！俺はこんな女は知らないぞ！

マク 彼女はペネロペ。スリーサイズがマリリン・モンローと同じ女。

ブル 何だって！？

ペネ 「こんな女」なんて、随分なご挨拶ね。まあ貴方のようなお坊ちゃんから見れば、私のような女は「こんな女」かもしれないわ。父は強盗に殺され、母は事故死、兄は私をマフィアの銃撃から守って死んだ。それから私は組織のエージェントとして、ずっと一人で生きて来た。私はペネロペ。不幸に愛された女。

ブル おおペネロペ、なんて悲しい目をした女なんだ。

ペネ 同情なんていらないわ！でも・・・私の事をここまで本気で心配してくれたのは、あんたが始めてかも知れない・・・。

ブル ペネロペ・・・。

ペネ ブルース・・・。

ブル ペネロペ・・・。

ペネ ブルース・・・。

マクレーンが懐から銃を出し、ペネロペを撃つ。

マク 裏切り者は死ね。

ブル ペネロペー！

ペネ 私、後悔はしてない・・・。

ペネロペが絶命する。

ブル ペネロペー！・・・愛し始めていたのに！

マク 姉の娘だと思って目をかけていたが、まさか裏切るとはな。

ブル マクレーン！彼女は、彼女は幸せになるべきだったのに！

マク 我が組織に歯向かった者の末路が判ったかねブルース君。我々は逆らう者に一切の容赦はしない。

撃とうとしたマクレーンの銃をブルースが撃ち落とす。

8

ブル 今判ったよマクレーン。パーカーの言う通り、お前はここで止めなきやならない！

マク 今頃判ったのかねブルース君。しかし私もここで終わる訳にはいかない。どうだろう見逃してはもらえないだろうか。私もこんな手は使いたくないのだ。

ブル どういう事だ！何を言っている！

マク いやなに、君は・・・犬を飼っていたのではなかったかね？

ブル おいまさか・・・、

マク 名前は確か、

ブル 止めるマクレーン！

マク ビリー。

犬のビリーが走り込んで来る。

ブル ビリー！どうしてお前が……。
ビリ ハッ、ハッ、ハッ、オン！ハッ、ハッ、ハッ、……オン！

ビリー所狭しと駆け回り、柱の匂いなどを嗅いでいる。

ブル ビリー！逃げるんだ！逃げるビリー！

ビリーはマクレーンにも寄っていく。

ビリ オン！

マク !ハッハ……ハッ……ハッハッハ……。

少し犬が恐いマクレーン。

ブル 止めるマクレーン！ビリーは関係ないはずだ！止めるんだ！

マクレーン、懐からボールを出す。

ブル 何をする気だマクレーン！ボールをどうするんだマクレーン！

マクレーンがボールを投げ、それを追いかけるビリー。

マクレーンが懐から銃を出し、ビリーを撃つ。

ビリ キャウン！

マク 犬より猫が好きだ。

ブル ……ビリー！

ビリー、一度ブルースに視線を投げた後、絶命。

ブル ビリー！……一度も言う事を聞かなかった……。

マク 憐れだなブルース君。もはやこの世に君を待つ者はいない。だから私が、君を安息の地へ連れて行ってあげよう。

撃とうとしたマクレーンの銃をブルースが撃ち落とす。

ブル 確かに俺にはもう何も無いように見えるかも知れない。だが、俺にはお前を止めるという使命が、まだ残っているんだよマクレーン！さあもう終わりだ。

マク …… 終わりなのはどっちなブルース君。

ブル なに？ どういう事だ！

マク これを見たまえ。

マクレーンがコートを脱ぐと、体に爆弾を巻き付けている。

ブル そ、それは！

マク これは我が組織が開発した最新鋭の爆弾だ。これ一発に核爆弾三個分の火薬が詰まっている。そしてもし私が死ねば、すぐに爆発するようにプログラムされている。

ブル なんだって……。

マク つまり私が死ぬという事は、このニューヨークに住む三億人が死ぬという事だ。それでも君は……私が撃てるかね？

ブル なんて事だ……。

力なく銃を降ろすブルース。

マク ハッハッハ！やはり最後に笑うのは、私だったようだねブルース君。

ブル …… いや、

ブルースがゆっくりと銃を構え直す。

マク どういうつもりだブルース君。

ブル 俺は諦めない。お前を殺さず、その爆弾を解体してやる。お前をここで逃がすわけにはいかないんだ。死んでいった者の為にも！

マク ほう……私を殺さず、尚かつこの爆弾を解体すると、君はそういうん

だな？

ブル ああそうさ！俺はお前を逮捕し、その爆弾を解体する！必ずだ！

マク ……必ず解体するだど？

ブル ああ、俺は絶対にその爆弾を解体してやる！

マク だったらこんな物は必要ない！

マクレーンが爆弾のコードを引きちぎる。

マク 必ず解除される爆弾など私には必要ない。それに私は君とは正々堂々決

着をつけたかと思っていた。これが本当の決着だ。ブルース君！

ブル マクレーン！

マクレーンが銃を抜こうとする瞬間、ブルースがマクレーンを撃

つ。コートを脱いだマクレーンに銃は無く、銃弾が直撃する。

倒れるマクレーン。

ブル マクレーン！

駆け寄るブルース。

マク 見事だブルース君。

ブル 何故撃たなかったんだマクレーン！

マク 私は…私は最初から、誰かに止めてもらいたかったのかもしれない。

死体を一瞥するブルース。

マク 私の完敗だ。ブルース君、いや、こう呼ばせてもらおう、ブルース。

ブル !ま、まさか…。

マク お前は私にとって…自慢の息子だ。

ブル 父さん！